



緊急催眠

むつ市長選公開討論会



6月定例会 坂本 大助 テーマは健康！ JC研究局 局長

長 員では日差しも強くなり紫外線が気になる今日この頃、皆様如何お過ごしでしょうか。さて我々JC研究局が担当する6月定例会が同月16日(月)にいつもそのままやりプラザにて開催されました。内容については下北地域県民局、保険総室長、平成紅(たいらくれない)様をお招きし「変えよう下北!下北地域健康なまちづくり運動!!」をテーマに講演していただき、比率的に健康的とは言えない者が数多く所属するむつJCメンバーの意識改革を自論んだ例会となりました。保険総室長と言うよりむつ保健所の所長と言つた方が分かり易いと思いますが、平様の講演では具体的な数値を提示し、分かり易く今の青森県、下北の現状を御講演頂き、その後でメンバーをグループ分けし、それぞれの健康意識を洗い出

西久保三選手、個人の経験値アップに繋がったかな、と思っております。因みに、前回の対内紙にて相内友博幹事、むつ版アカデミー塾長の決意表明の記事が載っていたかと思いますが、心の病か虚弱体質かでダウントするようで、本来は塾長からの報告であるべきところ、俺様局長からの報告になってしまったわけで、そこは大いなる佐藤恭太委員長には深くお詫び申し上げ候。健康例会とは何だったのか?皆様も重々、暴飲、暴食、暴君にはお気を付け頂ければ坂本大助も大破せず航行を続ける事が出来ます。今後とも宜しくお願い致し候。おわり。

つ青年会議所の歴史・活動」を教えていただきました。特に印象に残ったお話が2つあります。

阪神淡路大震災が起きて、「リュックサックを背負い、すぐに震災現場へ駆けつけた」「当時のメンバーも駆け付けた」「全国のJCが駆け付けた」というお話を。

『JC宣言文』ならびに『綱領』。むつ青年会議所は、阪神淡路大震災が起きた時、すぐにこれらを無意識に実行へ移したのだと思いました。

もうひとつは『命』についてです。「兵庫県のJC理事長の子供さんが阪神淡路大震災で亡くなった。でも、その理事長は、救援活動を一生懸命やっていた。その悲しみは想像を絶する…



青会新報

8月12日(火)
2014年(平成26年)

発行元
一般社団法人 むつ青年会議所
〒035-0031 青森県むつ市柳町 1-10-25
まさかりプラザ内

発行責任者 総務情報委員長 佐藤恭太

し、多少はメンバーの健康に対する意識変革があったのかなと思います、理事長

OB会主催親睦会に参加して

OB会主催の親睦会に参加させていただき、多数の先輩方とお話をさせていただく機会に恵まれました。私は、南谷信廣先輩の隣に座らせていただきました(当時の「ぶらまき」)。お話をされた時、私は言葉が出ませんでした。そしてこのお話を聞きした時、もっと深く「命」について考えなければならぬと思いました。

立候補予定者3名をお招きしての討論会には、市政に関心を寄せる市民の多くが来場しました。平成26年5月30日に齊藤理事長から、公開討論会を開催したいという話がありまして、6月17日開催にむけて、実行委員長として関わせていただきました。自分は今年、LOMでは監事という役職ですが、青森ブロックへも出向させていたたいており、所属する委員会が憲法や選挙に関する内容の事業を実施する委員会でしたので、まったくわからない訳ではありませんでした。全国各地の青年会議所は公開討論会を開催しており、むつ青年会議所としては初の開催でした。

運営する側としては、立候補予定者の市制に対する考え方を市民の方にきいて頂きたい思い、そして選挙への関心をもつてもらいたい思いがありました。この事業は青年会議所だからこそできると確信しております。

なせなら一つ一つの資料やドキュメントデーターの選定なども厳しい理事会の承認を頂いたからこそ、できるからです。立候補予定者へはあらかじめテーマを決めて、話していただきました。市民の皆さん、JCメンバーも関心をもって聞いており、その姿を見ると公開討論会開催はこれからも必要な事業であると確信いたしました。

討論会当日はメンバーの皆様の呼びかけもあり、来さまい館ホールBは約230名の入場者数があり、満員でした。自分としても非常にうれしく思いました。

駐車場係り、会場の設営など二人ではできない事業であり、メンバーの協力がなければ、成功できなかつたと思つております。メンバーの皆様本当にありがとうございました。



浜奥内 海浜清掃

地元の婦人会や、老人会、近川保育園の園児達、市や企業、各種団体の方々も多数参加され、自分たちが当初予想していた以上の大規模な清掃活動でした。毎年恒例の行事と聞いていたのでゴミの量も大した事ないと余裕に構えていましたが、点在するゴミの多さに驚き、事前環境や景観を無視して不法投棄やポイ捨てなどがまだ多い現実を再度確認することになりました。今後もこのような事業には積極的に参加し、活動の輪を広げていきたいです。

7月3日(木)浜屋内海
水浴場にて、屋内小学校、
近川中学校、むつ養護学校
による海岸清掃活動に
むつ青年会議所メンバーや
が参加させていただきました。

總務情報委員
大平 博信



十和田の地で盛大開催 青森ブロック大会

ヨリヅ ロツフ キョウイ

(ぜつこうじょう) 畑中宏之氏

2015年度青森ブロック大



次年度復員專攻委員會 無事選出完了！

投票を行った結果、同票
による再選挙がありまし
たが、メンバーの信頼が
厚い5名のメンバーが選
出されました。いよいよ
来年に向けたむつのJ.C.が
見えてきましたが今年も

拳が行なれました。総務業を遂行したいのです。情報委員が担当するこの
ね！



アカデミー大学塾生による十和田囃子が披露された。むつJCからは4名がそれぞれの楽器を担当。



三浦副会長と品田委員が会員会議所のメンバーと記念撮影。



憲法委員会 副委員長 土方君も大忙し。

今年度青森ロック協議会に出向しております、各地員会議所を通じ、地域そして青森県全体を輝かせることを目標に邁進してまいりました。その集大成の発信の場として7月12日、13日の2日間にわたり十和田市において第4回青森ロック大会を開催致しました。

(ぜつこううちょう) 畑中宏之氏を招いてまちづくり、まちおこしについて講演して頂き、またTA(交流分析)セミナー、防災・減災意識醸成セミナー、MYチャヨイス(未来の有権者教育プログラム)と3つのフォーラムが行われ例年より内容の濃い充実した大会が開催されたのではないかと思います。私的にも当LOMから多くのメンバーに参加して頂き充実した大会となり、メンバリーに心から感謝しております。そして大会最後に行われました大会式典では

した。現在の当LOMは新しい人財が増え良い波に乗っていると思いますので、その勢いのまま来年も前進でければ、今まで以上に良い大会が開催できると信じております。

企画・運営部会長 川上 隆

まさかりロード2014徒步の旅

完歩から何日か経過しましたが、

まだ足腰が痛いです。

それと同時に感動の余韻もまだ残っています。

むつ青年会議所55周年記念事業として行われたこの事業、約1年前から齋藤理事長をはじめ、原田55周年実行委員長、高屋記念事業担当理事が中心となり準備を進めていただきました。

そして当日裏方として動いていただいた会議所メンバー、各チームにサポートとしてついていただいたメンバー、

本当にお疲れ様でした。



実行委員長 高屋 龍一

まずはメンバーへ感謝!!!

どの役割も気の抜けない作業量の多い事業でした。
朝の4時から夜は12時過ぎまで…。

2泊3日よく皆さんの体がもったと思います。

OBの皆様からも予想以上に? (笑) 協力していただき感謝感謝です!

皆様のモチベーションの高さ素晴らしかったです。

小学生の保護者がどんな気持ちで、この事業に子供を送り出したのか。

そのことに少しでも応えるために私たちはできるのか?

そのことを真剣に考えた事業でした。

青年会議所はリーダー育成機関もあるべきです。

この事業は小学生だけでなく高校生がリーダーとして活躍できる下地を作っていく素晴らしい事業です。

事業を通じての小学生・高校生の成長には驚かされ、メンバーが感動し、

逆に成長させられていることを感じました。

実行委員長に指名していただいて本当によかったです!

3日間、下ネタを言えないことは辛かったですが…



団長 斎藤 晃史

まずは、(一社)むつ青年会議所55周年記念事業「まさかりロード」が無事に修了しましたことをご報告させていただきます。

昨年、理事予定者の段階から動き始め、実現までの道のりを作ってくれた原田55周年実行委員長・高屋記念事業担当理事。

この二人を中心に、約1年という時間をかけての事業でした。

早朝から深夜まで運営に携わってくれたJCメンバー、支援物資の提供と当日の人的協力をしてくれたOBの先輩方、この事業に携わった多くの方々のおかげでゴールできたのだと思います。

しかし、この事業の目的はゴールをすることではありません。

3日間の中で、励まし合い、助け合いながら

子供達の精神的成長を促すことが目的でした。

サポートメンバーとして各班の子供達と一緒に歩いたメンバーは、

その成長を感じられたと思います。

この成長こそが青年会議所が掲げる

「ひとつづくり」の一端ではないでしょうか。

この事業に携わってくれた

全ての人に感謝しております。

ありがとうございました。



むつ青年会議所発行

青会新報

まさかりロード 特集号

8月12日(火)

2014年(平成26年)

発行元

一般社団法人 むつ青年会議所
〒035-0031 青森県むつ市柳町1-10-25
まさかりプラザ内

発行責任者 総務情報委員長 佐藤 勉太

設営部会長 山道直寿

設営部会の活動として、開会式や閉会式、子供達・ボランティア高校生・サポートメンバーの休憩場所設営が主な活動です。とても地味な活動をしておりました設営メンバーですが、実は設営メンバーも子供の緊張がほぐれていく経過や、ビンのラムネジュースが大好きな所を休憩場所の度に思い出の上書き保存を一緒にしておりました。次の休憩設営場所までいく際、ロードを歩く子供達を追い越していく時、何回も手を振ってもらったのが記憶に残ります。このような感動する事業に参加でき設営メンバー全員感謝しております。楽しかったです。



生活・衛生部会長 立花一行

当部会では二泊三日まさかりロードにおいて食事の準備、片付けなどを担当させていただきました。部会長と言いましても、その殆どは大平さんに依存する部分が多く、個人的にはこれといった仕事はできていなかったように思います。特に2日目のBBQにおいては段取りの甘さを露呈し、取り繕った感は否めず部員を始めメンバーの皆さん全員の助けもあり何とかなりました。大変ご迷惑をおかけしました。部会長としての責任を果たせなかつたことを痛感しております。この失敗を明日への糧とし今後に活かしてまいりたいと思います。



広報・記録部会長 村館洋介

部会の役割としては撮影がメインとなる部会ですので、子供達の表情をより身近なところで撮影しようと考へ、部会は車移動でなく自転車・徒歩の結論に至りました。初日は大間に車を置きアルサスへ自転車移動、そして一緒に同行しながら移動。二日目は自然の家から大間へ自転車移動後同行。最終日は一緒に歩き撮影しました。子供たちの苦しい表情や、顔つきの変化を撮りたかったのですが子供たちは、終始笑顔で元気でした。また、高校生の子供への気配り等ができる良い関係の写真も撮れ、ゴールの時は達成感全快の表情が素晴らしかったです。写真一枚一枚が参加した方の思い出になってくれる事を願います。



安全・救護部会長 阿部貴裕

「メロスは激怒した」・・・かの有名な小説「走れメロス」の冒頭である。メロスは友人との約束を守るために走ったが、まさかりロードに参加してくれた子供たちは自分自身の成長を目的に歩き続けたのである。メロスは友人との信用を勝ち取ったが、子供たちは、自信を勝ち取ったことだろう。これからこのむつ市を背負っていく子供たちが得たものは人生において代えがたい経験になったはずである。我々安全・救護部会としても子供たちの少しでも役に立てたことをうれしく思います。七月二十七日、子供たちはまさしくメロスであった。

